

タイトル: 弁天岳

弁天岳は、蓮の花びらのように、高野山の周りにそびえる聖山の1つです。弁天岳山頂にある神道の神社は、弁財天というヒンドゥー教の女神サラスワティーに由来する日本の女神を祀っています。弁財天は、神道と仏教の両方と関連し、両方で崇められ、音楽、水、時間、会話、知恵など、流れるものすべての守護神です。この女神は、山頂の聖なる谷に流れ込み、水を供給する泉を守っていると信じられています。

弁天岳の神社の他にも、高野山のあちこちに、弁財天を祀る小さな神社が6つあります。

和歌山県の古い文献の紀伊続風土記によると、空海としても知られる、弘法大師(774-835)は、高野山を開いた頃、奈良（当時は大和として知られていました）へ行き、仏教の教えと信仰の新しい中心地を守ってくれるよう、弁財天に頼みました。女神は了承し、弘法大師と一緒に高野山へ戻り、宝珠に自分の御霊の一部を入れ、それを弘法大師が弁天岳山頂の地面に埋めました。その時からずっと、この女神は、高野山の重要な守護者、擁護者です。